

# AMAKURU Rwanda

-Ukwezi Kwa Cyenda-



青年海外協力隊 2017 年度 4 次隊  
ルワンダ派遣 (2018/3~)  
コミュニティ開発 (水の防衛隊)  
野田 恵莉



Mwiriwe! (こんにちは!) 2018年3月末より東アフリカの赤道直下に位置するルワンダ共和国に派遣されている野田恵莉(のだえり)です。

東部県ンゴマ郡ムラマセクターに赴任して4か月半が経ちました。8月末から雨季の気配が! 最近急な豪雨とカラカラ晴れ日の繰り返しです。

さて今月も、私の活動、任地の暮らしについて紹介します。



📷: 任地では、年に2回目の田植えが終了。

----- 念願の水委員会とのミーティング -----

今まで何度、空振りをしたことか…。やっとのこと、ある地域の水委員会と話し合いを進めることができました! 今回のミーティングの目的は、新・旧水委員会の情報共有をして、皆が同じ認識を持つことです。

朝、同僚と一緒にある村に向かいました。ドキドキしながら気長に待っていると、ちらほらと遅れてメンバーが登場。いつもどおり、小さな背丈の椅子を持ってきてくれ、米倉庫の前で話し合いがスタート。

同僚の助けを借りながら、過去の料金徴収状況や旧水員会が持っているお金の残額、今後の使い

道など確認した後、今後の集金のしくみづくりについてどの単位で料金徴収するのが適当か話し合いました。



📷: 水委員会とミーティングの様子。

また、メンバーから、「残りのお金を使って、保護湧水の修繕をしようと考えている」という話が出たので、さっそく近くの保護湧水を一緒に見に行くことに。



📷: 修繕予定の保護湧水。住民に教えてもらうまでは、井戸の近くにこの保護湧水があるとは知りませんでした。

メンバー曰く、保護湧水の水量が少なくなって

いるので、地面の下にある水源に問題がないか確かめてみたいとのこと。そのために、セメントを購入する必要があるということでした。

果たして本当に必要な作業なのか、水量が減っているのか不確かでしたが、毎日水汲みをしている住民が気づいた変化なので、彼らの主体性を尊重することに。

次回、村人がUmuganda（奉仕作業）で保護湧水の修繕をする際、水委員会から井戸の料金徴収について説明をすることになりました。

今回は、一步前進！やっと同僚や水委員会メンバーと意思疎通を図ることができました。今後は、この村で得た情報をヒントに、水委員会の料金徴収の仕組みづくりも考えていきたいと思います。

----- ルワンダの結婚式に招待されました -----

乾季は結婚式ラッシュ。先日、同僚の弟の結婚式（キリスト教）に参列してきました。彼には一度も会ったこともありませんが、初めてもらった招待状がとてもうれしかったので出席することに。

ルワンダの結婚式は、一日がかりです。女性はきれいなドレス、男性はスーツを着ておめかしをします。まず役所で婚姻届けなど手続きを済ませ、専属カメラマンが記念撮影をします。そのあと教会で儀式を行い、再び記念撮影を済ませ、新婚さんの家でパーティーという流れ。

今回は、教会の儀式に参列してきました。



📷：教会は、親せきや友人で埋め尽くされる。

結婚を祝福して何組ものコーラス隊が大音量のバンドミュージックとともに歌います。そして神父さんが聖書を説き続けます。すごい迫力…。

また、家族からのメッセージ、誓いの言葉、指輪の交換など…日本でもおなじみのシーンも。



📷：感動の誓いの言葉と指輪交換。

最後に、新郎新婦が新婚生活をサポートしてもらうためにお金を集めます。



📷：新婦が持っているバスケット「Agaseke」は、嫁入り道具の一つ。“幸せが逃げないように”と願いが込められています。

その後、新郎新婦の家にて歌い踊り、飲み食いしながら楽しいひと時を過ごしました。



📷：不思議なくらい歌と踊りが体に染みついているルワンダ人。

では、来月もお楽しみに。Murabeho～!(またね!)